



公益財団法人大阪YWCA

2021年度（令和3年度）

（2021年4月1日～2022年3月31日）

事業報告

はじめに

昨年に引き続き、コロナ禍の影響を大きく受けた 2021 年度。年度当初からまん延防止等重点措置や緊急事態宣言が繰り返し発令され、様々な制約と厳しい財政状況の中、突破口を求めて試行錯誤をした 1 年となりました。この苦しい時に大阪YWCAの事業・活動に様々な形でご支援、ご協力をいただきまして、ありがとうございました。受講生、参加者、講師、ボランティア、会員、お心を寄せて下さったすべての皆様に心からの感謝を込めてご報告いたします。

専門学校日本語学科は、新規の留学生が入国できず、少人数での授業を余儀なくされました。4～5 月は緊急事態宣言のもとオンラインでの授業が続いたほか、食事を囲んでのクリスマスパーティなど学生達が楽しみにしていた行事を実施することもありませんでしたが、それぞれ日本に来た時の目的を見失うことなく、真面目に真摯に勉強を続け、志望の大学、専門学校へと進学していきました。そのがんばりには、本当に頭が下がる思いです。辛かった経験も、必ずや成長へとつなげ、よりよい留学生活、そして、それに続く人生の糧としてくれると信じています。

日本語教師養成講座は、質の高い授業をより多くの受講生に届けられることを願い、通信・通学併用型コースの新設に取り組んでいましたが、日本語教育業界全体の状況も鑑み、2024 年 3 月の修了生をもって文化庁届出の課程を終結することを決断いたしました。今後は、これまでの実績を土台にして、新たな形での日本語教師の育成、研修と実践の取り組みを包括的にすすめていくことができれば、と願っております。

中国帰国者支援事業は、コロナ禍における各自治体の異なる対応に沿った事業運営が必要な 1 年でした。また、提供する支援に関しても変化を求められています。これから目指すべき多文化共生社会の実現に向けて、この事業で培ったノウハウやネットワークを、どのように活用して貢献していくかを考えてゆきたいと思います。

運営委員会では、ピースフェスティバルを 2 年ぶりに実施。オンラインの利点を活かし、沖縄、名古屋、東京など全国の参加者を結んでのプログラムとなりました。沖縄YWCAとのつながりは、次年度以降、新たな取り組みへと結びついていきそうです。

ウクライナ、ミャンマー、パレスチナなど、世界の様々な地域で紛争や暴力が蔓延し、日本も含めて人権侵害が続いています。よりよい社会づくりに貢献する人材育成という原点に立ち返り、必要とされている働きを見極め、歩んでゆきたいと思います。2022 年度も皆さまの更なるご支援、ご指導をどうぞよろしくお願いいたします。

公益財団法人大阪YWCA

総幹事・常務理事 中山 羊奈

目 的

キリスト教の基盤にたち、女性と青少年の力を集め、リーダーシップを養成し、すべての人にとっての正義・平和・健康・尊厳・自由・持続可能な環境を実現することを目的とする。

基 本 方 針

1. 非核・非暴力による平和の実現のために積極的に行動する
2. 多様性を認め合い、出会いの中で育ち合い、変革を担う人材を育成する

＜日本YWCA第33総会期＞

ビジョン 女性がリーダーシップを発揮し、人権・平和・環境を大切にする社会

ミッション 若い女性をエンパワーし、共に社会変革を進めます。

バリュー

1. キリスト教基盤

すべての人は神の前に等しい価値をもつと信じ、常に弱い立場に置かれた者の側に立たれたイエス・キリストの生き方に倣(なら)って行動します。

2. 平和・環境

アジア・太平洋戦争の反省から生まれた平和憲法を活かします。すべての「核」を否定し、軍事基地を含む暴力のない公正で持続可能な社会をめざします。

3. 人権

人種・国籍・宗教・性・出自・年齢などの多様性を互いに尊重し、ジェンダー平等のもとで誰もが自分らしく生きることができる社会をつくれます。

4. セーフスペース

会員（ボランティア）が主体的にプログラムを推進し、すべての活動を、多世代協働によって民主的に運営します。常に誰にとっても安全安心な空間をつくり、誰もがエンパワーされる場とします。

2021 年度標語

自分を愛するように、あなたの隣人を愛しなさい

マタイによる福音書 22 章 39 節より

I. 教育事業

1. 専門学校事業

(1) 全体

昨年度同様、各コースとも新型コロナウイルスの影響により受講生が減少し、非常に厳しい状況が続いた。そのような中でもできるだけ通常授業が保てるよう、オンラインを駆使して学ぶ機会を確保した。また動画での広報やSNSの新しい手法も取り入れつつ、留学生・受講生の獲得に努めた。

今後も時代の様々なニーズに対応できるよう、柔軟性とチャレンジ精神をもって日本語教育を行っていきたい。

(2) 日本語学科／本科・日本語第二学科

全日制総合日本語コース（本科）は、モーニング会話クラス（春期のみ）や午前中だけの聴講生も含め、春期4クラス22名（内オンライン受講2名）、秋期3クラス23名（内オンライン受講5名）であった。コロナによる新規入国制限により、大半の学生が入学を2022年度春樹に延期。依然として厳しいスタートとなった。大阪府私学課からの要請により、緊急事態宣言中も対面授業を実施した。入国待ちの学生にはオンライン授業のほか、クラスメートや担任教員とオンライン交流の場を設定する等、日本語学習のモチベーションを保てるよう努めた。

進路面では、早い段階から進路相談や出願手続きのサポートなど、きめ細かな指導を行なった。様々な制約がある中、校内スピーチコンテストや日帰り旅行、ミニクリスマスパーティー等、これまでとは形態を変えて実施、できるだけ通常の学業生活を送れるよう、工夫を重ねた。

2年に一度開催していた“ホームカミングデー”は、“オンライン同窓会”として実施した。卒業年度別にオンラインで行い、教職員と在学中の写真を「画面共有」しながら、楽しいひと時を過ごした。

(3) 日本語学科／別科

イブニングコースは春期、秋期とも3クラスを開講した。日本の企業で働いている外国人がほとんどだが、日本人の配偶者や永住者、昼間は日本の学校に通う中・高校生も受講した。国籍は中国、台湾、韓国、アメリカ、フランス、フィリピン、ミャンマー、ネパール、ベトナム、マレーシア、タイ、トリニダード・トバゴ、オーストラリアと多彩で、年齢も10代から50代まで幅広い層が在籍した。能力試験準備コースは春期、秋期ともN1、N2を開講した。こちらも国籍は多彩で中国、台湾、韓国、アメリカ、ベルギー、フランス、イタリア、ミャンマー、インドネシア、ネパール、フィリピン、ベトナム、モロッコの学生が7月、12月の試験に向けて意欲を持って受講した。夏期集中コースは、コロナの影響で外国人が来日できないため、オンラインでの授業を行った。中国とマレーシアの2名だけだったが、オンライン用に新しく開発した教材を使いレッスンが出来た。オプションプログラムとしてバーチャル日本ツアーを行い、講師が学校界隈を散策し身近な日本を案内した。来日したら是非行ってみたいと好評であった。

プライベートレッスンについては、グループレッスンには参加できない学生がそれぞれのスケジュールに合わせてレッスンを行った。

(4) 奨学金

今年度も大阪YWCA奨学金、大阪YWCA留学生里親の会奨学金、鈴木保奨学金それぞれの選考及び支給を行った。今年度の文部科学省外国人留学生学習奨励費は配分方法の変更により、学生数の少ない当校は12ヶ月の推薦は受けられなかったが、秋からの6ヶ月採用の推薦を受けられ支給された。

また今年度もコロナの影響でアルバイトも減り経済的に困窮している学生が多いことから、留学生全員に留学生支援特別給付金を支給した。今年度は日本学生支援機構から新型コロナウイルス感染症対策助成金として半分を学校が持つことを条件に1人10,000円の給付があり、大阪YWCA奨学金から一人10,000円を足して合計一人20,000円を留学生10名に支給した。

多くの方々のご協力、ご寄付により、奨学金を支給することができた。これからも、志高い勤勉な学生を一人でも多く経済的に支援していけるよう、努力を続けていきたい。

ここ数年、月一回の恒例となっていたランチスープはコロナの影響で今年度も年度初めから提供することができなかったが、感染状況が少し落ち着いた11月に1年9ヶ月ぶりに再開、留学生達にも喜ばれ、何杯もおかわりする学生もいた。今後も様子を見ながら提供していく予定にしている。なおランチスープは来年度から梅田会員部委員会の所属グループとして活動を継続する。

2. 日本語教師を養成する事業

(1) 日本語教師養成講座

4月下旬から緊急事態宣言が発出したため、春学期の**教養・基礎コース**の6割はZOOMを使ったオンライン授業で実施した。対面での授業がふさわしいと判断した**実践・応用コース**の数科目は一時中止し、解除されてから土曜日に振り替え授業を行った。就業支援を目的とした講演会では、初めてオンラインで開催し多くの参加者を得た。修了生である帝京大学教授藤森弘子先生をスピーカーに「日本語教師のキャリアの作り方」と題し、これから求められる教師の在り方について語っていただいた。

秋学期の**土曜日講座**は「生活者としての外国人に『ことば』で寄り添う日本語支援者講座」(全10回)と名称を改め広く告知した結果、昨年度の5倍の参加者が獲得できた。1月下旬から3月までまん延防止重点措置が発令され、登校に不安を感じる受講生のためにオンラインに切替え継続。年度内に修了式を行うことができた。

2024年度開講を目指していた通信・通学課程だが、同年に日本語教師が国家資格化される状況を見極める意味も含め一旦、白紙に戻した。検討を重ねた結果、日本語教育業界をとりまく状況が大きく変わりつつあるなか、2022年度春学期をもって募集を停止し、2024年3月末に、現在修学中の全ての受講生の修了とともに文化庁届出の2年制課程に幕を下ろすことを決断した。今後は日本語教師会と連携しながら、日本語教師育成の領域で現場に求められる事業を展開していく予定である。

(2) 日本語教師会

新型コロナウイルス感染拡大の影響下、自治体・国際交流団体等での日本語ボランティア向け講習会や日本語教室への講師派遣は、中止になったものもあるが、日程を延期するなどして実施した(全15件)。ボランティアによる日本語教室活動が休止中のため、**大和郡山市**から新たに「はじめてのにほんご(入門)講座」の依頼があり、親子で受講できるクラスなど3クラスを開講した。**中学校夜間学級の教師向けの研修**依頼も徐々に増えている。

大学等では、昨年に引き続き、トラベルジャーナル学園の日本語授業(一部、Webexによるオンライン)のほか、**企業の日本語研修**にも講師を派遣した。

日本語コースでは、「**ビジネス日本語上級クラス**」(春期・秋期とも)、「**特別クラス**」を実施した。

教材開発では、日本語夏期集中コースで使用する**オンライン教材**を作成した。また、Jリサーチ出版から『**くらべてわかる日本語表現文型辞典 初級編**』が1月に出版された。

講座・セミナーでは、「**日本語教育能力検定試験対策講座**」(オンライン併用、今年度途中から**オンデマンド**受講を開始)「**日本語初級／中級文型の教え方講座**」、「**春の日本語教育オンラインセミナー**」(全3回)を行った。

研修会・研究会関係では、「**文法・構文研究会**」、大阪YWCAで初めて教える会員を対象にした「**新人研修プログラム**」を実施した。

3. 生涯学習の各種クラス・講座

「**子どもと子どもの本の講座**」は、新型コロナウイルスの影響で「**子どもと本をむすぶコース**」と「**読み聞かせボランティアのブラッシュアップコース**」は中止となった。感染状況も少し落ち着きをみせた秋からの「**ストーリーテラー養成コース**」は感染防止対策を取ったうえで開講できた。今年度は講師に千里子ども図書館の語り手の方々に加わり、講義だけでなく、実際のストーリーテリングを聞き、実践の場での経験も聞くことができた。「**スキルアップ特別講座**」は感染状況が落ち着いた時期と重なり、受講希望者も多く、中止することなく開講できた。リピーターの受講者が多く、久しぶりの再開を喜び、講師の元気な顔も見られて良かったとの声が多く聞かれた。

ランゲージコースは韓国語上級、ベトナム語初級、ベトナム語中級を春学期と冬学期に開講した。春学期は2回緊急事態宣言の影響を受け、20回予定していた講座は韓国語上級が8回、ベトナム語初級が4回、ベトナム語中級が5回しか実施できなかった。ベトナム語初級は、春学期に担当していた講師が学期途中退職し、急遽ベトナム語中級の講師に初級も担当してもらったが、冬学期からはベトナム語初級は新たな講師を迎えることができた。

緊急事態宣言期間中は講座を中止することにしたが、今後はオンラインレッスンの可能性を探り、新たな授業形態を試みたい。

俳句講座は高浜虚子の孫、松田美子講師を迎え、毎月行っている。昨年同様、新型コロナウイルスの影響で集まる事が出来ず紙上の句会を行っている。足が悪くなり梅田の会館まで出て来られなくなった受講生が自宅から参加しており、日々の生活が心豊かになると好評である。

Ⅱ. 平和・人権・環境等国内外の社会問題についての学習及び普及啓発と人材養成事業

1. 人材育成・研修事業

「ソーシャルワークセミナー」では支援力養成コースの中に設けた新講座「チーム力養成講座」を10月末から開講予定であったが、イベント管理システムPeatixやFacebook 広告を使って広報しても最小催行人数に達しなかったため中止した。巷に乱立するオンライン講座との差別化が図れなかったことや、回を重ねてじっくり学びを得るシリーズ型の講座に人が集まりにくい状況になっていると考える。

「発達障がいをもつ人とともに」(全5回)は1月中旬から実施。開講途中からまん延防止重点措置が出たため、オンラインと対面の2通りの受講形態を準備し講座を継続した。「傾聴力養成講座」(全5回)は定員を超える申込みがあったものの、対面でロールプレイを実施する特性上、急遽オンラインに切替え2月中旬から実施した。上記の講座は大阪市ボランティア活動振興基金助成で実施された。

企業からの依頼を受け、コーチング、マネジメント等をテーマとした研修の提供も行った。

2. 平和・環境についての学習と啓発事業

5月、会員向けの学習会「パレスチナ人は苦しみ続ける～なぜ国連は解決できないのか～」を実施。高橋宗瑠教授(大阪女学院)に講師をお願いし完全オンラインで開催した。メディア等では中々報じられない今、パレスチナで起きていること、パレスチナの人々の平和への展望、またパレスチナの問題はなぜ国連では解決できないのか等の現状と課題をお話いただいた。

「気軽に憲法について語れる場を」との思いから始まったけんぼうカフェは今年度も7月と12月に実施。講師は、藤井恭子弁護士(大阪法律事務所)。7月は、テーマを「夫婦別姓を考える」とし、議論は盛んになっているものの根強い反対意見があり法制化が進まない現状等について考える場を持った。12月は、「国民投票法改正案の問題点を知る」をテーマとし、憲法改正の手続きのおさらいをし、今後の問題点や憲法改悪をさせないためにはどうしたらよいのかを考え、参加者同士意見を交換した。12月はコロナ禍も落ち着いていたため、対面での開催とし、お茶とお菓子を出し本来のけんぼうカフェを開催できた。

また1月には中川智子前宝塚市長をお招きし「女性が政治に関わる事の大切さ」をお話いただいた。女性としてこれではアカン!と目覚めた初めての就職先(船会社)での女性社員生活に始まり、宝塚市長3期12年を勤めて退任されるまでの50年ほどの人生を、時には笑いを交えての講演だった。「おかしい」と思ったことは愚痴っついていないで声に出す、仲間を作って訴える、男性も味方につけて社会に広がって行くまで諦めずに訴え続ける、気付きと考える力と行動力に満ちた人生を見せられた。また、議員に出たい人ではなく、出したい人を見付けて、政治の世界に送り込むこと大切とも語られた。叱咤激励された2時間半だった。

ピースフェスティバルは、「ていんさぐぬ花～沖縄の基地から見えてくるもの～」をテーマとし、オンラインで沖縄、名古屋、大阪をつないで行った。伊礼ゆうき元浦添市議の講演と、名古屋Yの「沖縄スタディツアー」、沖縄Yのユース・ルピナスの活動の報告を受け、少人数に分かれてのグループディカッションで感想を出しあい、今後も繋がりを深めていきたいとの思いを共有して終了した。全国からの参加を得ることができ、オンラインならではのプログラムとなった。

3. 国際的な諸問題についての学習と啓発事業

4、5月のイスラエルによるパレスチナへの大規模な軍事侵攻後、パレスチナYWCAからの発信を受け日本YWCAが中心となり、署名活動、クラウドファンディング等様々な取り組みがなされた。6月には日本YWCA・パレスチナYWCA共催でオンライントークイベント「空爆・停戦から1ヶ月、若い女性たちが語るガザと東エルサレム」が開催され、大阪YWCAからも有志が参加した。

パレスチナグループは8月に「りさ～ら」(アラビア語で「手紙」「伝言」)を発行。会員や関係団体に送付した。

4. 東日本大震災被災者支援

2021年度は、年度当初より次回わいわいステイプログラムの実施予定を2022年8月と定め、その実現に向けての準備を進めた。多くの人に活動と被災地の状況を届けるため、ホームページの見直し作業を行った。また、11月に行われたYM/YW合同祈祷週集会では、大阪Yの活動紹介として昨年度作成したわいわいステイプログラム10周年記念動画を上映し、アピールを行った。尚、この動画は3月に行われた定期会員集会でも上映した。活動資金調達としては、2年ぶりに開催されたクリスマスバザーに出店。気仙沼の海産加工品と福島のかきみゆべしを販売した。3月には、恒例の街頭募金を実施。新型コロナウイルスに配慮して大きな声掛けは控え、サイレントアピールとなったが、2時間で13,000円という予想以上のご協力をいただき、驚きとともに深く感謝をし

たい。大きな声で呼びかけなくても、何に使われる募金なのかを明確に提示できれば、募金してくださる方は確実にいると実感した。

Ⅲ. 社会的に弱い立場におかれた人への支援事業

1. 知的障がいをもつ女性の社会参加を促進する事業

(1) グループパレット（知的障がいをもつ女性たちのグループ活動）

グループパレットは、知的ハンディキャップのあるメンバーが委員会に参加し、企画にも積極的に関わっている。ボランティアと協働して誰もが自分らしくいられる場づくりを目指し、様々なプログラムを実施している。月1回の例会は、毎回メンバーとボランティアが担当をとり、メンバーも主体的に関わっている。

4月から6月まで緊急事態宣言が発出していたため例会が実施できなかったが、9月の委員会は初めてZOOMを利用して開くことができた。自宅待機が続く気分が落ち込むメンバーもいたが、画面越しで久しぶりにおしゃべりができる喜びから、月1回の活動の大切さを実感した。その後は状況をみながら、室内でクラフトをしたり近隣へ外出したりした。クリスマス会も時間短縮・簡素化して行った。皆でビンゴゲームやプレゼント交換、またケーキを食べたりして、楽しいひと時を過ごした。3月の日帰り旅行は、まん延防止重点措置が出たため、やむなく中止。来年度は感染症について皆で正しく理解し、安全に継続して活動していることを知ってもらい、仲間を増やしていきたい。

2. 視覚障がいをもつ人の社会参加を支援する事業

(1) むらさきつゆくさの会（視覚障がい者のための生け花の会とガイドヘルプ）

視覚障がい者のための生け花講座むらさきつゆくさの会は、4、5、6月はコロナの影響で休会、7月には開講できたが、その後また8月、9月と休会、10月から12月は感染防止対策を取った上で中山文甫会のご協力のもと開催できたが年が明けてからはまた休会が続いた。感染状況が少し落ち着いた頃に受講希望者とボランティアが増え20代から80代までの幅広い年代の受講生10名とボランティア10名が活動している。

(2) リーディンググループ

リーディンググループは、2グループがそれぞれに定期的に集まり朗読の録音や勉強会を行っている。

(3) 点字子ども図書室

新型コロナウイルスの感染拡大防止に配慮し、在宅での点訳を主に活動していた。貸し出しについては、従来なら月曜日と木曜日の2回だが、木曜日のみで継続した。10月になり感染状況が落ち着いてきたため、11月からは徒歩または車で来られる人たちを中心に活動を再開した。

今年度の新規児童書の点訳は、例年の3分の2程度にとどまった。2021年度現在までの蔵書数は3,815タイトル、7,860冊を数える。例年通り、統合教育を行う小中学校の算数・数学の教科書の点訳、金蘭千里中高のボランティアクラブで点訳講習を行っている。蔵書の保管場所の確保が急務である。

3. 高齢者の社会参加を促進する事業

千里ボランティア委員会の活動は主に高齢者向けの活動であり、人と人の距離を保つことが難しいため、新型コロナウイルスの感染拡大防止を考慮し「いこいの集い」、「おしゃべりルーム」、「シャロンカフェ」、「井戸端カフェ茶話茶話」の活動は2021年度も中止となった。約2年間活動できず今後の見通しも不安定なため、上記の活動は2021年度をもって一旦終了とし、また今後ニーズが出てくれば新しい形で再開を模索していくこととなった。「わいわいこども食堂」は今年度も感染拡大の防止に配慮し、開催を見送った。10月には感染状況もだいぶ落ち着いてきたため、シャロン千里入居者向けのミニ講座としてクリスマスカード作りとちぎり絵講座を行った。

毎週木曜日に行っている「配食サービス」は厨房で働き人が密集することを避けるため、昨年に引き続き1回あたりの人数を減らして活動を継続している。日本YWCAからの呼びかけでAmazon「みんなで応援」プログラムに参加、Amazonの特設サイト上で調味料の物品寄付を呼びかけ、多数のご支援をいただいている。

主催講座は、2020年度から延期になっていた「コロナ禍の心のケア」と題した講演会を、土井直彦氏を講師に迎え2022年1月に行った。

4. 女性のエンパワメント推進事業

(1) 女性のこころの健康サポート

2021 年度、主催講座「私らしく咲く～女性のこころの発達を考える連続講座～」(くれよん月例会)は、計 11 回実施。年間テーマを「共感とこころの健康 4-マイクロアグレッションの理解と対処」とし、ハラスメントの前段階にある微妙な人権侵害的言動—マイクロアグレッションをテーマとして扱った。

女性のこころの健康をサポートする事業としての**カウンセリングルーム**は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、従来の対面実施に加え、オンラインでのカウンセリングも試みた。年間延べ 16 名が利用した。

(2) インターンシッププログラム

今年度から始まった若い女性のリーダーシップ養成のための**インターンシッププログラム**は、6 月から 3 月まで毎月 1 回オンラインにてプログラムを実施した。初回の 6 月はオープニングプログラムとしてジャーナリスト小川たまかさんを迎えて講演会を実施。2 回目以降のウォームアップの時間では、国際条約等を用いて人権に関する知識や思いを深めた。内外からの講師を招き、女性の権利史、性と生殖の健康、キャリア形成、セクシュアリティやジェンダーに基づく暴力等多様なテーマで講義を行った。講義を聞いた上でメンバーが議論を行い、テーマに関する理解を深め、問題意識を高めた。同プログラムの一環として、国立女性教育会館主催「男女共同参画推進フォーラム」(通称 NWEF フォーラム)に出展。12 月 18 日オンラインにて「私たちの言葉には力がある！性教育について考えよう」をテーマにしたワークショップを行い、20 名が参加した。3 月 20 日は同プログラム最終回として、トークイベント「私たちの言葉には力がある～“つるむ”ことから始めよう～」を開催。元浦添市議・伊礼ゆうきさんをはじめ、社会の中で「おかしい」と思って実際に声を上げ行動した経験のあるゲストを招き、声を上げることの難しさやそれについての思い、そして仲間を得て行動を起こした経験を伺った。当日参加者は(ゲストを含め)38 名。企画から講師交渉や広報宣伝まで、同プログラムのメンバーが全面的に担当。参加者からは素晴らしいイベントだと評価され、メンバーも大きな達成感を得られた。

(3) Rise Up! School Visits

中高生のための包括的な性教育プログラムを開発・実施する『Rise Up! School Visits』(RUSV) チームに関しては、昨年度メンバーで継続できる人が少なく、新たな募集により 3 名のメンバーが得られた。RUSV の学習会として、9 月 11 日「人権教育としての包括的性教育～始めるためにまず知るべきこと」をテーマに、NPO 法人ピルコン代表 染明日香さんを講師に招き、オープン講演会を開催。25 名参加し、性教育に関して学びを深める場となった。また 1 月末、日本 YWCA 第 3 回全国合同 Rise Up! 交流会に参加。活動課題を共有し、交流会後ワークショップで利用した資料等を各地域 YWCA へシェアした。2 月にはプール学院中高 YWCA 部にワークショップを実施。性を含む、日常生活における様々な場面での同意形成、自己決定について中高生に考えてもらう機会を提供した。

(4) 関西学院大学 YWCA

関西学院大学神戸三田キャンパスの学生を中心に活動する**関西学院大学 YWCA**は、新メンバーが 7 名加入、メンバー計 13 名で活動した。ジェンダー平等やセクシュアルマイノリティの理解促進、ルッキズム問題、マイノリティの権利向上などをテーマに活動を展開。6 月はプライド月間に寄せて活動し、SNS で身近な LGBT+ の当事者エピソードの投稿をするなど、LGBT+ についての理解促進を図った。11 月 14 日に「学校制服がジェンダーバイアスに与える影響」をテーマに、PTA 会長として福岡の公立中学校の制服ジェンダーレス化に取り組まれた後藤富和弁護士を講師に招いてオンライン講演会を実施。12 月 5 日には講演会「すべてのジェンダーの人に知ってほしい、デート DV と避妊」を、NPO 法人ピルコン代表 染明日香さんを講師にオンラインで開催。2 つとも講師と学生との質疑応答・意見交換が活発に行われ、充実した時間を過ごすことができた。また学生たちにとってはイベント企画の実地研修の良い機会ともなった。2022 年 2 月 27 日「関学生と考えるジェンダー・セクシュアリティ～卒業研究シェアの会～」をオンライン開催し、19 名参加(うち：関西学院大学 YWCA 4 名、その他の大学生 2 名)。関学 YWCA のメンバー 2 名から「生理の貧困」と「LGBTIQ」に関する卒業論文のエッセンスをシェアしてもらい、ジェンダー視点からのコメンテーターとして、UNHCR 元職員の関西学院大学清水康子教授を招き、今後卒論を書く下級生へのアドバイスも含めたコメントをいただいた。今年度は創設メンバーが 4 回生となり、今後の継承について話し合いを深めた。

(5) 外部団体との交流と連携

12 月 5 日にワン・ワールド・フェスティバル for Youth プレイメントに参加し、大阪 YWCA のユースプログラムを紹介した。また 2 月 19 日に、いくの学園とオンラインシンポジウム「欧州評議会イスタンブール条約に学ぶ DV 被害者支援の新しい在り方」を共催した。参加者 51 名。7 月 1 日には、大阪府立堺東高校の SDG s の特別授業の講師に招かれ、ジェンダーに関する授業を実施した。

(6) その他

8月21日にオンライン読書会—上野千鶴子著『女ざらい ニッポンのミソジニー』読書会を実施した。ステップハウス元入居者支援グループによるクリスマス会を12月11日に会員ルームで実施し、7名参加。コロナ禍にあっても年に1度の近況報告の場となった。

上記の様々な活動のうち、ユースに関する(2)(3)(4)は、「日本YWCAユースエンパワメントプログラム補助助成金」7万円、「Generation Equality Youth Task Force 助成金ユースファンド」8.5万円、「日本YWCA 2021 年度コロナ禍における子ども・ユースエンパワメントプログラム補助」30.5 万円を得て実現が可能となった。

5. 中国残留邦人等への支援事業

(1) 近畿中国帰国者支援・交流センター（厚生労働省委託事業）

新型コロナウイルス感染症が流行し始めて2年が経過した。まん延防止重点措置、緊急事態宣言の発出期間中はオンライン授業を実施した。受講生の中にはコロナ禍による就労時間の短縮を利用して「日本語能力試験」の受験勉強を始めた、実際に受験するなど前向きな姿勢も見られた。介護支援事業である語りかけボランティア訪問は、訪問先である介護施設でボランティアの受け入れができない状況が継続しており、昨年から実施できていない。その他にも学習発表会、ボランティアとの会話練習、社交ダンスコーナー等、多人数が“密”になるプログラムが実施できなかった。しかしながら、感染状況が比較的良い期間には、昨年度はできなかった「収獲体験」、「近畿ブロック担当者連絡会議」を実施することができた。また、近畿ブロック県内の自治体を積極的に訪問し、連携構築に努め、地域の事情やニーズに関する情報収集を行った。

2021 年度、日本語学習支援として、春夏期、秋冬期ともに11 コース 16 クラスを開講し、約 160 名が登録、毎月延べ約 200 名が参加した。緊急事態宣言発出期間中のオンライン授業には、I 世からIII世まで約 100 名の参加登録があった。I 世世代対象の日本語クラスでは地域で役立つ「コミュニケーション能力」に重点を、またII～III世を中心としたクラスでは、集中的に学べるコースや上級レベルの日本語コースを開講し、「就職活動」「ビジネス場面」で役立つ日本語が学べるようにした。他にもキャリアアップ支援を目的とした「日本語能力試験」「観光・医療通訳技術」の資格取得対策、パソコンコースも引き続き開講した。今年度は、日本語能力試験 N3 を1名、N2 を1名、N1 を4名が受験し、N3 に1名、N2 に1名、N1 に1名が合格した。これら通学学習課程に参加できない帰国者のためには、遠隔学習課程（通信教育）のスクーリングを実施した。また、交流事業としては、引きこもり防止を目的にI 世世代対象に「朗朗(ランラン)クラブ」を実施した。延べ約 130 名の登録があり、季節の行事体験、介護予防体操、和洋裁等に参加している。高齢化が進むI 世を対象とする介護支援事業「語りかけボランティア訪問」は新型コロナウイルス感染予防のため実施ができなかった。介護施設、利用者との繋がりを保つため、ボランティアの協力のもとカードや手紙を送った。3 月に語りかけボランティア養成を目的とする研修会をオンラインで実施した。地域支援事業は各自治体職員対象の「近畿ブロック担当者連絡会議」を12月に実施し、情報交換の機会を設けた。地域での支援を充実させるため地域生活支援推進事業として、地域で支援活動をするボランティア団体、自治体等各関係機関、NPO との連携に努めた。また、尼崎市の支援団体である「コスモスの会」主催のシンポジウム「中国残留日本人への理解を深める集い」に協賛した。就職援助事業では、週3回日本語を学ぶ集中日本語クラスにて、2 月に模擬面接の面接官役をキャリア教育専門の大学助教に依頼し、模擬就労面接を行った。

(2) 大阪市中国残留邦人等に対する地域生活支援事業

大阪市中国帰国者支援事業では梅田に高齢者対象の日本語ゆっくりコース4クラス、パソコンコース1クラス、朗朗自習パソコンクラス1クラス、平野区に日本語コース2クラス、東淀川区に朗朗日本語クラブを開講した。合計約 100 名が在籍し、日本語学習や交流活動に参加している。参加者の高齢化に配慮し、全てのクラスでラジオ体操を実施し、その他にも脳トレや歌も取り入れ、介護予防、認知症予防のため楽しく継続して日本語が学べるよう実施した。

(3) 門真市中国残留邦人等に対する地域生活支援事業

門真市中国帰国者支援事業では毎週日曜日、日本語コース3クラスを開講、約 10 名が在籍している。学習歴のない人や高齢者の参加を促進するため、“楽しく学ぶ”ことに重点をおいた。中級レベルの受講生1名が日本語能力試験 N2 に挑戦し合格した。地域交流を目的に実施している「朗朗門真」には約 20 名が登録してる。昨年度から引き続き、手芸、介護予防体操、脳トレ等、引きこもり防止を目的に楽しみながら日本語に触れられるプログラムを実施した。

（４）京都市中国残留邦人等に対する地域生活支援事業

京都市中国帰国者支援事業では日本語コース２クラスを開講し約１０名が在籍。月１回、地域に住むボランティアの協力により会話練習を実施している。緊急事態宣言発出期間中はオンラインにて授業を行った。高齢者対象の「朗朗京都」は、引き続き実施している向島地域に加え、１０月から新たに醍醐地域でも月１回実施を開始した。合計約２０名の登録があり、健康体操、手芸等をしている。参加者の居住地に近い会場のため、感染予防に気を付けながら積極的に参加する人が多かった。

（５）宇治市中国残留邦人等に対する地域生活支援事業

宇治市中国帰国者支援事業では日本語コース２クラスを開講し約１０名が在籍。月１回、地域に住むボランティアの協力により会話練習を実施している。緊急事態宣言発出期間中はオンラインにて授業を行った。地域社会への参加の一つとして毎年参加していた城南勤労福祉会館「会館祭り」は新型コロナウイルスの影響で、今年度も実施が中止された。

（６）堺市中国残留邦人等に対する地域生活支援事業（堺健老クラブ）

堺市中国帰国者支援事業である堺健老クラブは、毎週木曜日３クラスを開講、約４０名が在籍している。昨年からの引き続き感染拡大防止のため、ボランティアとの会話練習を行う合同クラスは行わず、通常授業のみ実施した。休講期間が長かったが、対面授業再開時には新規受講の申し込みがあり、学習や交流への意欲の高さが感じられた。

IV. 青少年育成事業

1. 青少年活動

（１）小中学生のための異文化理解プログラム

新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、人が密集しやすい室内でのプログラムを取り止め、野外活動を中心とした。年間テーマを「のびのび走ろう、遊ぼう」とし、新しい生活様式の中で子どもたちがのびのびと遊べる場を提供することを目的にプログラム作りに取り組んだ。

１２月には、「歌声届けよう ハッピークリスマス ～つくる楽しさ 歌う喜び～」と題したクリスマス会を吹田市自然体験交流センターわくわくの郷（大阪府吹田市）にて開催し、これが２０２１年度初のプログラムとなった。プロのシンガーソングライターをゲストに迎え、オリジナルのクリスマスソングを子どもたちと一緒に作り歌った。６月に予定していた野外プログラム「わくわく大運動会」は、緊急事態宣言で２度延期を余儀なくされたが、３月には実施することができた。グループ対抗の競争やわくわくの郷の広い敷地を活用したポイントハイクなど、久しぶりに野外でたくさん遊ぶことができた。

リーダートレーニングは、新人のリーダーを対象に子どもとのコミュニケーションやプログラム時の危険予知トレーニングなどの内容で、１２月までにオンラインにて３回実施。対面でのリーダートレーニングは緊急事態宣言によりプログラムと同じく２度中止となっている。２月には、３月の野外プログラムに向けたトレーニングをわくわくの郷で行った。

プログラムの準備等に経費がかかるものの、延期が相次ぎ収入はゼロという状態が続いていた。財政的に厳しいため２０２０年度の活動報告を兼ねた寄付のお願いのリーフレットを作成、大阪YWCAの関係者、こども部の連絡先が分かっている一部のOB・OGに送付し、多数のご支援をいただくことができた。

（２）こどもミニスクール

外部講師や会員の協力を得て様々なプログラムを提供している「こどもミニスクール」は、子どもゆめ基金の助成を受け、夏休みに本館で、冬休みに千里で開催した。「力とバランス」「空気と飛ぶ」「磁石」をテーマにしたおもしろ理科実験、マスクとマスクケース作り、新年の虎柄でんでん太鼓作り、絵本の読み聞かせ等を実施。子どもたちと一緒に楽しい一日を過ごした。春休みは外出控えの影響のせいか、催行人数に届かず残念ながら中止した。

2. 子ども図書室事業

２０２１年度上半期も引き続きコロナ禍での厳しい状況が続き、やっと１０月から「ちゅうりっぷくらぶ」や少人数でのミーティングを再開した。

しかし、「おはなし会」、「ライブラリースクール」などの公開プログラム、その他ボランティアメンバーの勉強会

(絵本やストーリーテリング)は実施できないままである。また、メンバーは保育園、小学校、図書館などで「おはなし会」を担当したり講座の講師を務めたりしていたが、中止、延期となったものが多い。

現在は少人数で集まり「50周年記念誌の編集」、「おはなし会についての検討」、「本の受入れ、整理」など図書室再開へ向けての準備作業を進めている。

このような中、9月には『ごはん たべよ』『おでかけしようか』『おやすみなさい』(大阪YWCA千里子ども図書室文 大塚いちお絵 福音館書店 2012)のベトナム語版が出版されることになった。又、10月には『いちじく にんじん』(大阪YWCA千里子ども図書室案 ごんもりなつこ絵 福音館書店 2007)の重版との嬉しい知らせも届いた。

3. 子育て支援事業

千里子育て支援委員会は、緊急事態宣言の合間を縫って「おやこひろば」を継続、子どもたちの健やかな成長を見守るだけでなく、母親にとっての憩いの場になるような場づくりを心掛けた。今年は恒例の人形劇もクリスマス会も中止せず行うことができ、楽しい時間をプレゼントすることができた。

アドラーde ママズカフェは2020年度に引き続きオンラインで開催していたが、6月からは対面に戻して開催している。子どもの年齢によって様々な悩みがあるが、参加者で共有し、ともに考えて解決の糸口を探して前進している。

V. ボランティア養成事業

1. 梅田

様々な世代の交流、会員親睦などの機会をつくっている。

傾聴関連活動の傾聴カフェ・ラベンダーは、今年度も新型コロナウイルスの影響で開店を見合わせている。ミーティングを行い再開に向けて話し合いを重ねている。研修会は例年通り、臨床心理士の井ノ崎敦子氏を招き行った。訪問傾聴・コスモスは対象者がなく活動を休止している。

クリスマス会は今年も中止とし、そのかわりに、梅田会員部委員会でクリスマスカードを作成し、会員発送に入れた。

梅田会員部所属グループは現在13あり、約100名のメンバーが自主活動を展開している。リーディンググループ、むらさきつゆくさの会、みのり会、英会話サロン、聖書を学ぶ会、スウスの会、いのちを語る会、絵手紙の会、手話サークル、などのグループが定期的に活動を行っている。各グループとも、コロナの影響で年度初めは自粛していたが、少し落ち着いてからは十分な感染予防対策をした上で再開している。また、以前活動していた「ねこの会」が復活、新しく「ソーパークーピングの会」も活動を始めた。

この他、ご寄贈頂いた無農薬の紫蘇で7月に紫蘇ジュースを作った。またパラダイス&ランチのパンも不定期で販売している。

昨年からの「きまぐれバザー」は会員ルームで常設しきまぐれに開店している。たまに見に来られる方があるので、その時にだけ会員ルームを開け案内している。12月の全体のクリスマスバザーの際にも開店した。クリスマスバザーの為に「きまぐれバザー」として会館受付や会員ルームで販売している。会員ルームでのきまぐれバザーは一旦閉店することが決まり、年度末に閉店セールとリサイクル衣料特別セールを行った。コロナも少し落ち着いてきていたので、感染症対策を取った上で、賑やかに開催された。

今年度は、講座として鶴橋で昆布屋を営んでいる昆布司「吾妻屋」取締役の向久保裕介氏を講師に迎え「日本の食文化をみつめなおす～伝統的なお出汁とは～」というお話を聞いた。

また秋の正倉院展に合わせ、帝塚山大学客員教授の牟田口章人氏を講師に迎え「愛が残した正倉院宝物～正倉院に伝わる日本最古のラブレターとは?～」の講座を行った。正倉院展に行く楽しみが増えたという好評だった。

2. 千里

2021年度に入ってから高齢者福祉施設であるシャロン千里では引き続き入館制限が行われ、会員活動も場所をこども館とボランティア室に限定し、感染拡大防止対策を各グループで工夫して活動を継続している。

不特定多数の来館を避けるため、恒例の歌声サロン、6月のバザー、8月のバックウッズマウンテニアーズのコンサートは2020年度に引き続き断念したが、バックウッズのコンサートは財務委員会と千里委員会の共催で2022年3月に梅田本館にて開催した。新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いた10月には、参加者を限定し会場もこども館のみという形でガレージセールを開催。収入としてはそんなに多くはなかったが、以前の賑わいを取

り戻したひと時となった。また、少しでも収入を増やすため、毎年恒例の梅田クリスマスバザーにも出店した。

パラダイス&ランチのパンの販売もしばらくは予約販売の形をとっていたが、コロナ前と同じくロビーでの販売を7月から再開することができた。**クリスマス会**は密を避けるため定員を例年より少なくし会食のない形ではあったが今年では中止することなく開催することができた。**クリスマスミニセール**も予定通り行うことができた。毎年恒例の**毛糸の帽子を編んでみよう会**は今年も多くの方のご協力により全国から463個の帽子が集まり、歯ブラシ、固形せっけんなどと共に釜ヶ崎に贈ることができた。

千里合唱団は緊急事態宣言中は休止するも、7月以降はこれまで通り2階ホールで活動している。**千里ハンドベルクワイア**は10月から活動を再開した。**コールセンリ**の活動はまだ見合わせの状態が続いていたが、再開の日を迎えることなく終了することが2021年末に決定した。**聖書を読む会**は4月に再開するも感染拡大状況を鑑み10月まで活動を休止。時間帯を午後に変更し密を避けるため広いこども館で開催することとなった。一旦休止していた**サロン四季**は6月に再開。**Bridges**は今年も手作りクリスマスリース作り講座を開催した。**使用済み切手整理**は休まずに継続している。本来は20周年の予定であったが、コロナ禍の影響でJOCsの切手の受付がまだストップしているため、引き続き整理のみ行い発送はしていない。**文月会**は休まず活動を継続している。コロナ禍では出席は自己責任とした。5月には「やまぼうし」17号を20周年記念号として発刊した。**アトリエ創**も7月以降は定例の月2回の活動を順調に開催し、ガレージセール、梅田クリスマスバザーにも出店した。**会館清掃**はボランティア室を中心に行っている。

趣味のグループ**生け花**、**水彩画**はおおむね予定通り開催している。月に一回、コロナ禍での貴重な憩いのひと時となっている。

3. ボランティアの受け入れ

電話やホームページからボランティアの問い合わせがあり、問い合わせがあればその都度、個別での対応を行っている。今年度のボランティア登録者数は6名。こども部、むらさきつゆくさの会、点字こども図書室などの活動につながった。

4. ファンドレイジング

(1) クリスマスバザー実行委員会

今年度は、規模も開催時間も大幅に縮小し、来場者も会員や賛助員、ボランティア等に限定しての開催となった。運営委員会が実行委員会を兼ね、普段活動している委員会やグループ単位で売り場を作る新しい形を取り入れ、各委員会やグループが趣向をこらして準備した品々が売場を彩った。長くオンラインでの会議や催し物が続いたため、久しぶりの対面で集えることの喜びも大きく、会場のあちらこちらで再会をよろこぶ歓声が響いていた。小規模の催しとなったにも関わらず、ご寄贈品をお送りいただいた企業や個人の皆様のご協力に深く感謝をしたい。 日程：2021年12月4日（土） 来場者：104名（働き人、職員含む）

(2) チャリティコンサート

コロナ禍により、長くコンサートなど会員が集える楽しいプログラムを実施することができていなかったが、今年度はブルークラスバンド「バックウッズ・マウンテニアーズ」によるチャリティコンサートを財務委員会、千里委員会共催で実施することができた。バンジョーやギター、フィドル（バイオリン）による軽快な演奏と楽しいおしゃべりで大いに盛り上がり、ステージと会場が一体となった、観客の手拍子が絶えないコンサートとなった。 日程：2022年3月5日（土） 参加者：71名

5. 運営委員会

運営委員会では、ピースフェスティバル、クリスマスバザー、定期会員集会の運営を行った。開会の感話は、昨年度の4市Y合同ミーティングで検討した「キリスト教基盤である大阪YWCAが大切にしている7ヶ条」と結びつけてを行い、梅田だよりに内容を掲載して全会への共有を図っている。また、日本YWCAが実施する「若い女性のエンパワメント事業を推進するファシリテーター養成講座」、「運営委員のためのワークショップ」には、運営委員が分担して参加した。

VI. 広報

1. 機関紙

発行回数は、定例機関紙〔A4版4頁〕年6回。今年度は昨年度と同じ特別号〔A3版両面〕の発行はなかった。

定例版の1面は主に外部執筆者にその時々課題を明確にする寄稿を依頼、2～3面は、YWCAの関心事や活動テーマを掘り下げる内容となっている。1～3面で取り上げたテーマは、沖縄辺野古基地問題、ジェンダー、ユースの活動、パレスチナ問題、岸田政権等。4面には、専門学校を始め大阪YWCAに関わる報告やイベントの広報を主に掲載した。連載では、『ぶどうの木』、『YWの窓』、『わたしのイチオシ』を継続した。

2. ホームページ・WEB関連

今年度のホームページからの問い合わせ（専門学校を除く）は、年間128件あった。問い合わせ対象で主だったのは社会貢献活動部門のプログラム、ボランティア募集、教師会関連、講座部関連の4種類だった。ホームページで、検索数が1番多かったのはボランティア活動のページ。時期により教師会、バザー、毛糸の帽子を編んでみる会などが続いた。Facebook、twitter、Instagramでのこまめな情報発信も心掛けた。

VII. 日本Y・他市Y・他団体関係

YM/YW合同祈祷週集会は「こわれたものからの美しさ ―Beauty from Brokenness―」をテーマに、オンラインと対面の併用で実施された。食事を囲んでの交流は今年もかなわなかったが、金武士牧師（大阪西成教会担任牧師）による礼拝と各Yからの活動報告が行われた。大阪YWCAからは、東日本大震災被災者支援担当が昨年度作成した「わいわいステイプログラム10年の歩み」の動画を上映しながら活動をふりかえり、今後の活動についてのアピールを行った。

日本YWCAの地域YWCAを主体とした活動助成による4市Y（京都、神戸、名古屋、大阪）合同ミーティングは、運営委員研修とキリスト教基盤、ユース育成をテーマとしたフォローアッププログラムを各Yがそれぞれ実施し、参加を呼びかけ合った。大阪Yでは、6月の女性エンパワメント推進チーム主催「日常の中のミソジニー」、9月のピースフェスティバル、1月の平和・環境部委員会主催「女性が政治に関わる事の大切さ」の3つをフォローアッププログラムとした。また、今年度の世界YWCA日は4市Y合同プログラムを行い、各Yの活動紹介、増田琴牧師（日本基督教団経堂緑岡教会）のメッセージを聴いたあと、グループに分かれて分かち合いの時をもった。

VII. 収益事業

社会福祉法人大阪キリスト教女子青年福祉会の経営する大宮保育園に対して、本財団の大宮町の土地・建物を貸与。また、同じく同福祉会の事務業務の一部を受託した。

資 料

I. 教育事業

1. 専門学校事業

(1) 全体概要

◇会議

＊日本語本科別科ミーティング 2回実施 出席数 13 名

＊学校広報ミーティング 3回実施 延出席数 16 名

◇外部団体合会への参加・出席

＊大阪府専門学校各種学校連合会

- ・専修学校グローバル化対応推進支援事業留学生委員会ワーキング会議（10 回）中山羊奈
- ・留学生担当者研修（6/3、6/18）藤田実余子
- ・人権教育研修会（6/17）藤田実余子
- ・専門学校教職員向けオンラインセミナー（6/25、10/28、1/28）中山羊奈
- ・私立専修学校・各種学校事務の手引き説明会（10/7）川崎仁子
- ・海外教育機関向けのオンライン出前授業 打ち合わせ（10/8）川崎仁子、中山羊奈
- ・プレスリリースセミナーおよび各種広報事業報告会（10/25）川崎仁子
- ・海外教育機関向けのオンライン出前授業（オンライン）（11/1）氏原庸子、川崎仁子、ティエン、中山羊奈、藤田実余子

＊全国専門学校日本語教育協会

- ・意見交換会（オンライン）（4/2）川崎仁子、中山羊奈
- ・定時総会（オンライン）（7/1）川崎仁子、中山羊奈
- ・文化庁パブリックコメント募集に関する説明会（オンライン）（9/3）川崎仁子、中山羊奈

＊日本語教育振興協会

- ・日本語教師初任研修（オンライン）（6/26、9/11、11/13）井関幸
- ・生活指導担当者研修（オンライン）（10/14）藤田実余子

＊文化庁

- ・日本語教師の資格に関する調査協力者会議（オンライン）（4/27、5/31、6/29、7/19）牛江真由子、奥美和子、川崎仁子
- ・文化審議会国語分科会（オンライン）（10/12）奥美和子、川崎仁子
- ・日本語教育大会（オンライン）（11/21）川崎仁子
- ・「ウィズコロナにおけるオンライン日本語教育実証契約・精算の手引き」オンライン説明会（3/31）川崎仁子、藤田実余子

＊その他

- ・五者をめざす日本語教師の会主催 オンライン授業実践報告&相談会（オンライン）（4/17）藤田実余子
- ・株式会社 Linc 主催 セミナー「日本語学校 3 世代から見た、コロナの今をどう乗り越えるか」（オンライン）（4/22）藤田実余子
- ・五者をめざす日本語教師の会主催 技能別教え方セミナー中級～上級作文編（オンライン）（4/24）井関幸
- ・株式会社電算システム主催 Google Education セミナー（オンライン）（5/6）藤田実余子
- ・日本語教育学会主催 日本語教育学会春季大会（オンライン）（5/22）牛江真由子、川崎仁子
- ・㈱さんぽう主催 教育研究フォーラム（オンライン）（6/19）佐伯玲子
- ・リードエグジビションジャパン㈱主催 関西教育 IT ソリューション EXPO（6/23、24、25）牛江真由子、奥美和子、川崎仁子、藤田実余子
- ・大阪教育大学地域連携・教育推進センター主催 識字・日本語学習研究集会（7/10）川崎仁子
- ・株式会社ショーケース主催 「Google Analytics を使いこなす！これからサイト内分析を始める入門講座」（7/16）牛江真由子、奥美和子、藤田実余子
- ・一般財団法人八尾市人権協会主催 八尾市じんけん楽習塾「ジェーン・エリオット先生ふたたび～人権差別体験授業は差別への予防接種～」（オンライン）（7/28）奥美和子
- ・ECC 国際外語専門学校主催 日本語学校教職員対象学校説明会（8/6）井関幸、川崎仁子、藤田実余子
- ・コロナ禍の日本留学の扉を開く会主催 「オンライン情報共有～なぜ私たちは日本に行けないの？～」（8/18）中山羊奈
- ・映像産業振興機構主催 J-LOD オンライン説明会（8/24）川崎仁子
- ・株式会社ジープラスメディア主催 日本語学校・専門学校向け生徒募集無料ウェビナー（オンライン）（8/31）川崎仁子、中山羊奈、藤田実余子
- ・神戸学園主催 神戸学園創設 55 周年記念イベント（オンライン）（9/9）川崎仁子、中山羊奈
- ・全日本学校法人日本語教育協議会主催 全学日協セミナー（10/26）佐伯玲子

- ・株式会社ジープラスメディア主催 日本語学校・専門学校向け生徒募集無料ウェビナー（オンライン）（10/26）川崎仁子
- ・文科省、入管庁、厚労省主催 入国制限緩和の説明会（オンライン）（11/8）川崎仁子、藤田実余子
- ・株式会社 三光ホームページの活用・改善勉強会（オンライン）（11/19）川崎仁子、藤田実余子
- ・留学生支援コンソーシアム大阪主催 第1回『外国人留学生エキスポ』（12/4）マ・ローリン
- ・自治体国際化協会主催 多文化共生の担い手連携促進研修会（オンライン）（12/9）氏原庸子、川崎仁子、桑原静枝
- ・一般社団法人外国人雇用協議会 リフト株式会社主催 外国人雇用協議会コミュニケーション戦略部会定例ウェビナー（12/16）川崎仁子、藤田実余子
- ・株式会社アクセスリードネクステージ主催 留学生サポートフォーラム2021・冬（オンライン）（12/21）藤田実余子
- ・日本語教育機関関係6団体主催 「ウィズコロナにおけるオンライン日本語教育実証事業」説明会（オンライン）（12/22）川崎仁子、中山羊奈、藤田実余子
- ・フォースバレー・コンシェルジュ株式会社主催 Study and Work in Japan セミナー（オンライン）（2/3）川崎仁子
- ・株式会社ジープラスメディア主催 セミナー「留学生集客とPR戦略について」（オンライン）（2/22）藤田実余子
- ・文部科学省主催 水際対策説明会（オンライン）（2/25）川崎仁子、藤田実余子
- ・東京日本語教育センター主催 日本語教育機関教員と高等教育機関留学生教育担当者との研究協議会「オンライン授業～工夫と課題～」（オンライン）（2/27）川崎仁子
- ・株式会社アクセスネクステージ主催 広報セミナー「リターゲティング広告ができなくなる?! Cookie 規制で変わる Web 広告」（オンライン）（3/7）川崎仁子、藤田実余子
- ・文部科学省、出入国在留管理庁、国土交通省主催 「留学生円滑入国スキーム」に関する説明会（オンライン）（3/10）川崎仁子、藤田実余子

◇外部来訪・訪問

- ・大阪 YMCA 国際専門学校来訪（4/12）3名 川崎仁子、中山羊奈
- ・ミャンマ・ヤマト日本語学校来訪（10/12）5名 川崎仁子、中山羊奈、藤田実余子
- ・専門学校アートカレッジ神戸来訪（12/2）3名 川崎仁子、中山羊奈
- ・大阪大学箕面新キャンパス訪問（6/28）3名 牛江真由子、奥美和子
- ・学校法人ポプラ学園訪問（11/10）5名 氏原庸子、川崎仁子
- ・伊賀上野観光協会、伊賀多文化共生センター、中森梨園訪問（12/23）9名 藤田実余子、山下つねよ

◇カウンセリングルーム カウンセラー：井ノ崎敦子 相談者数実数3名、延べ相談回数16回

（2）日本語学科／本科・日本語第二学科

◇クラス数／学生数

※モーニング会話クラスを含む。

クラス数		学生数				
		1年	1.5年	第二学科	一般	合計
春期	4	3	9	0	10	22
秋期	3	3	15	0	6	24

◇出身国と地域

日本、中国、台湾、ベトナム、フィリピン、マレーシア、ミャンマー、ネパール、シンガポール、モンゴル、ウズベキスタン、スペイン

◇年中行事・校外学習・課外活動プログラム・特別授業

内 容	回数もしくは日程	出席者数
始業式	4/6	28
クラスオリエンテーション（オンライン含む）	4/6、10/5	70
留学生基礎力講座（防災）	4/23	13
校内スピーチコンテスト	9/17	28
日帰り旅行	11/5	19
ミニクリスマスパーティー	12/17	34
健康診断	1/27	9
上級クラス会話交流（オンライン）	2/4	8
オンラインホームカミングデー	2/4、25、3/5、26	68
学習発表会	3/4	30
卒業式・卒業ミニパーティー	3/9	31

◇進学指導・生活指導関係

内 容	回数もしくは日程	出席者数
実力テスト	6 回	140 (受験者のみ)
文法テスト	6 回	129 (受験者のみ)
定期テスト (5 科目)	3 回	340 (受験者のみ)
生活・進路相談	5/2、14、6/24、28	16
エール学園主催 日本留学試験模擬試験	5/15	3 (受験者のみ)
日本留学試験	6/20、11/14	7 (受験者のみ)
海外待機学生面談	7/2、5	14
日本語能力試験	7/4、12/5	24 (受験者のみ)
進学説明会	7/6	15
継続生クラス分けテスト (オンライン含む)	9/13、2/28 3/10、11、24、25	28 (受験者のみ)
新入生クラス分けテスト (オンライン含む)	9/16、22、27、3/28	30 (受験者のみ)
予備教育：総合科目 4月～11月 31回 英語 4月～11月 33回 数学 4月～11月 24回 物理/化学 4月～11月 25回		
午後2 漢字クラス：4月～9月 (2クラス) 週3回、(1クラス) 週2回 10月～2月 (2クラス) 週3回、(1クラス) 週2回		

◇学生募集

＊台湾 日本村主催

- ・午間日本留学オンライン座談会 (7/27) 李 婧
- ・オンライン留学生向け学校説明会 (10/28) 氏原庸子、藤田実余子、李 婧
- ・専門学校宣伝説明会 (オンライン) (3/17) 李 婧、連芝洪、韓 彬

◇会議・研修会

日本語本科ミーティング 4回実施 出席延数 24 名

担任会 9/22、3/15 出席延数 13 名

オンラインシステム説明会 9/24 出席 8 名

全体講師会 4/1、9/30、3/31 出席延数 73 名

全体反省会 9/17、3/4 出席延数 47 名

中間講師会 6/25、12/10 出席延数 46 名

春期報告会 9/15 出席 7 名

卒業判定会議 3/2 出席 7 名

予備教育講師会 3/8 出席 7 名

(3) 日本語学科／別科

◇イブニングコース

春期：3 クラス 17 名 秋期：3 クラス 20 名

出身国/地域：中国、台湾、韓国、アメリカ、フランス、フィリピン、ミャンマー、ネパール、ベトナム、マレーシア、タイ、トリニダード・トバゴ、オーストラリア

◇日本語能力試験準備コース

春期：2 クラス 8 名 秋期：2 クラス 7 名

出身国/地域：中国、台湾、韓国、アメリカ、フランス、ベルギー、イタリア、ミャンマー、インドネシア、ネパール、フィリピン、ベトナム、モロッコ

◇夏期集中コース (オンライン)

1 クラス 2 名

出身国/地域：中国、マレーシア

オプションプログラム：バーチャル日本ツアー 7/28、8/4 10 名

◇プライベート・出張授業 11 件

◇プレイスメントテスト

イブニングコース 春期プレイスメントテスト (4/9 12 名)

イブニングコース 秋期プレイスメントテスト (10/8、9、13 5 名)

日本語能力試験準備コース 春期レベルチェックテスト (4/2 5 名)

日本語能力試験準備コース 秋期レベルチェックテスト (9/3、4、29 10名)

夏期集中コース プレイメントテスト (7/7 5名)

◇会議

イブニングコース 春期講師会 (4/16 9名)

イブニングコース 秋期講師会 (10/15 9名)

イブニングコース 春期中間講師会 (6/8、18 5名)

イブニングコース 秋期中間講師会 (11/9、12/7 5名)

日本語能力試験準備コース 春期講師会 (4/6 7名)

日本語能力試験準備コース 秋期講師会 (9/7 8名)

夏期集中コース 講師会 (7/16 8名)

別科ミーティング (4/10、6/23、7/10 10名)

(4) 奨学金

奨学金名称	受給者名	受給額
留学生支援特別給付金	10名	一律1人20,000円
文部科学省外国人留学生学習奨励費	連 芝洪 (台湾/女)	月額48,000円 (6ヶ月)
大阪YWCA留学生里親の会奨学金	韓 彬 (中国/男) ブイ ゴック ホアン ミン (ベトナム/男)	月額30,000円 (6ヶ月)
鈴木保奨学金	スミヤ ニヤムダワー (モンゴル/女) バヤルツォグト ソヴドエルデネ (モンゴル/女) 韓 彬 (中国/男)	月額30,000円 (6ヶ月)
大阪YWCA奨学金	ピアグ ジョナファ (フィリピン/男) 連 芝洪 (台湾/女) スミヤ ニヤムダワー (モンゴル/女) バヤルツォグト ソヴドエルデネ (モンゴル/女)	月額30,000円 (6ヶ月)

2. 日本語教師を育成する事業

(1) 日本語教師養成講座

◇新規入学者 春期5名 秋期2名

◇在籍数 17名 (1名休学)

◇講義回数 (年間総時間数420時間)

	月・金	火	水	木	土	計
春期	40	21	20	20	—	101
秋期	40	19	23	18	9	109

◇修了生数 5名

◇プログラム

*講座「生活者としての外国人に『ことば』で寄り添う日本語支援者講座」(対面/オンライン)全9回 延14名

*FFP (Foreign Friendship Program) 中止

*日本語本科会話授業 中止

*「日本語ってどんなことば?!」ミニ講座 9/4 参加者:4名、3/12 参加者:4名

*先輩と語るシリーズ「日本語教師のキャリアの作り方」(オンライン) 9/18 参加者:26名

*「体験!日本語だけで日本語を教える?!」ミニ講座 9/25 参加者:3名、3/26 参加者:2名

*受講生募集ガイダンス 全10回 参加者:延20名

(2) 日本語教師会事業

◇会勢 新規入会者6名 総会員数216名 (内休会60名)

◇月報 「マンスリー日本語教師会」の発行 (12回)

◇図書・テープの貸し出し状況 図書 117冊、視聴覚教材 4本

◇入会オリエンテーション (日本語授業プレゼンテーション含む) (1/29 16名)

◇専任講師 氏原庸子

◇専任講師会の実施 計5回

◇日本語教育状況

学校・コース名	教師数			
	春期	夏期	秋期	冬期
専門学校日本語学科全日制	22	—	20	—
〃 モーニング会話	5	—		
〃 イブニング	7	—	7	—
〃 能力試験準備	4		4	
〃 夏期集中		5		
〃 ビジネス日本語上級クラス	2	—	2	—
〃 〃 特別クラス			2	—
近畿中国帰国者支援・交流センター	19	—	19	—
中国帰国者支援事業日本語コース梅田教室(大阪市)	4	—	4	—
〃 平野教室	2	—	2	—
〃 東淀川朗朗クラブ	1	—	1	—
〃 門真教室	3	—	3	—
〃 京都教室	2	—	2	—
〃 堺 健老クラブ	3	—	3	—
プライベート及び出張授業	11件／教師16名			

◇講座・研修会・研究会・プロジェクト

- ①新人講師研修会 全7回 対象者5名
- ②日本語教師ビギナーのための日本語初級文型の教え方講座 講師：氏原庸子 全12回 11名
- ③初級文型との違いがわかる！日本語中級文型の教え方講座 講師：氏原庸子 全12回 5名
- ④2021年度日本語教育能力検定試験対策講座 講師：島千尋
第一期：全6回 7名 第二期：全6回 10名 第三期：全8回 12名 第四期：全9回 13名
- ⑤春の日本語教育オンラインセミナー
第1回「作文指導のヒントー自分を伝えるためにー」 講師：佐竹秀雄 全1回 24名
第2回「日本語教師のためのイラストセミナー ○▽◇から描こう！～身近なものの描き方と使い方～」
講師：児島弥生 全1回 9名
第3回「外国にルーツを持つ子どもへの日本語学習支援 入り口編」 講師：辻村文子 全1回 29名
- ⑥文法・構文研究会 全8回 メンバー10名

◇外部出張（講師として）

- ①大阪市立総合生涯学習センター「にほんごこんにちは(基礎レベルの日本語教室)」全60回
伊東和子、大町曉美、川村清美、田村亜津子、林昌子、山田登
- ②同上「識字・日本語ボランティアのためのスキルアップ講座」 全5回 伊東和子、林昌子
- ③大阪市立天満中学校夜間学級研修 全3回 里井有里
- ④大阪府教育庁「識字・日本語教室学習支援者養成講座」全1回 辻村文子
- ⑤カルベカ国際交流協会「日本語ボランティアのためのイラスト講座」 全1回 児島弥生
- ⑥橿原市立畝傍中学校夜間学級研修 全3回 里井有里
- ⑦岸和田市国際親善協会「日本語ボランティア レベルアップ講座」 全1回 大西雅子
- ⑧ダイキン工業日本語グループ研修（Zoomオンライン） 2クラス 野村麻里
- ⑨天理市立北中学校夜間学級職員研修 全4回 里井有里
- ⑩トラベルジャーナル学園日本語授業 15クラス 池田敬子、大西雅子、小出芳生、永持京子
- ⑪奈良市立春日中学校夜間学級職員研修 全2回 里井有里
- ⑫枚方市「日本語ボランティア養成講座」全10回 大西雅子、小出芳生、山田登 受付業務担当：川崎仁子、藤原裕美子
- ⑬同上「日本語ボランティア ステップアップ講座」全3回 大西雅子、辻村文子、福家枝里
受付業務担当：川崎仁子、藤原裕美子
- ⑭松原市「日本語学習パートナー入門講座」全2回 辻村文子
- ⑮守口市「日本語ボランティア養成講座」 全5回（1回めZOOMオンライン） 大西雅子、福家枝里
- ⑯八尾市立八尾中学校夜間学級職員研修 全1回 伊東和子
- ⑰山角興業 日本語研修 2クラス 加藤育子、田村亜津子、山田登
- ⑱大和郡山市「はじめてのにほんご(入門)講座」 3クラス 坂本由美子、中野雅之、松井治子

◇外部集会・研修参加

- ①山角興業 訪問(4/5、7/19、12/23) 氏原庸子、川崎仁子、藤原裕美子
- ②大紀商事 訪問(4/14) 氏原庸子、川崎仁子、藤原裕美子
- ③大阪観光局「留学生支援コンソーシアム大阪」2021年度会合(5/20、12/9・2/10(オンライン)) 氏原庸子、川崎仁子
- ④日本語教育学会春季大会(オンライン)(5/22、5/23) 川崎仁子
- ⑤大阪アニメーションカレッジ専門学校訪問(会話教材・音声収録)(5/26、6/22、7/2) 氏原庸子、川崎仁子
- ⑥千里経営サポート事業協同組合 来訪(6/14) 川崎仁子、藤原裕美子
- ⑦ダイキン工業訪問(レベルチェック)(6/23) 氏原庸子、野村麻里
- ⑧大阪市立天満中学校夜間学級 来訪(6/29) 川崎仁子、藤原裕美子
- ⑨大阪府教育庁 来訪(7/9) 川崎仁子、中山羊奈
- ⑩文化庁日本語教育小委員会(オンライン傍聴)(7/15) 氏原庸子
- ⑪大阪市立総合生涯学習センター「識字・日本語ボランティアのためのスキルアップ講座」打合せ(オンライン)(8/2) 氏原庸子、川崎仁子、藤原裕美子
- ⑫トラベルジャーナル学園 来訪(8/18、2/25) 氏原庸子、川崎仁子、藤原裕美子
- ⑬枚方市役所 訪問(8/23) 川崎仁子、藤原裕美子
- ⑭大阪市立総合生涯学習センター「にほんごこんにちは」打合せ(オンライン)(10/7) 氏原庸子、川崎仁子
- ⑮NTTドコモ セミナー(オンライン)(10/26) 藤原裕美子
- ⑯箕面自由学園放送部 来訪(10/28) 氏原庸子
- ⑰大和郡山市役所 訪問(10/29) 氏原庸子、川崎仁子、藤原裕美子
- ⑱ジェトロ・オンラインセミナー「外国人材採用企業の日本語コミュニケーション」(11/25) 氏原庸子、小林誠二、山田登
- ⑲大阪市立総合生涯学習センター 訪問(12/8) 川崎仁子、藤原裕美子
- ⑳大阪市立総合生涯学習センター「にほんごこんにちは」見学(12/20) 川崎仁子
- ㉑Jリサーチ出版 来訪(3/1) 氏原庸子、川崎仁子、中山羊奈、藤原裕美子
- ㉒武庫川女子大学言語文化研究所シンポジウム「食と日本語」(3/12) 氏原庸子
- ㉓大阪市教育委員会「令和3年度 新たな識字・日本語学習体制検討会議」(オンライン)(3/29) 伊東和子

3. 生涯学習の各種クラス・講座

(1) ランゲージ

◇クラス状況

科目	春期		秋期	
	クラス数	在籍数	クラス数	在籍数
韓国語	1	5	1	5
ベトナム語(初級・中級)	2	12	2	9

(2) 子どもと子どもの本の講座

◇クラス状況

内 容	回数	延人数
子どもと本をむすぶコース	0	0
読み聞かせボランティアのブラッシュアップコース	0	0
ストーリーテラー養成コース	7	47
スキルアップ特別講座	11	95

(3) 生涯学習・教養講座

講座名	講師	回数	受講者(延人数)
俳句講座(紙上)	松田美子(俳人高浜虚子の孫・俳誌「春潮」主宰)	11	149
日本の食文化をみつめなおす	向久保裕介(昆布司「吾妻屋」取締役)	1	13
愛が残した正倉院宝物	牟田口章人(帝塚山大学客員教授)	1	20

Ⅱ. 平和・人権・環境等国内外の社会問題についての学習及び普及啓発と人材養成事業

1. 人材育成・研修事業

◇連続講座

ソーシャルワークセミナー		回数	延人数
傾聴力養成コース（オンライン）		5	77
支援力養成コース	発達障がいをもつ人とともに（オンライン／対面）	5	32
	チーム力養成講座	—	—

◇外部講座

依頼先	内容	日程	延人数
(株)クボタ及び 関連グループ 企業	コーチング実践研修	5/20～21	21
	新任役職課長マネジメント研修、コーチング研修	6/24, 7/6, 8	75
	コーチング実践研修	7/20～21	19
	コーチング実践研修	10/5～6	15
	新任役職課長マネジメント研修、コーチング研修	11/11, 11/18	52
	研究開発推進部コーチング・コミュニケーション研修	11/12, 19	34
	コーチングレベルアップ研修	11/17	9
	新任役職課長マネジメント研修、コーチング研修	1/12, 1/25	63
	2年目研修	1/26～27	18
	新任課長補佐研修	2/3～2/4	25
	新任課長研修	2/10	27
	5年目研修	2/24～2/25	25

2. 平和・環境についての学習と啓発事業

◇主催事業

プログラム名	講師等	集会日	参加者
パレスチナ人は苦しみ続ける ～なぜ国連は解決できないのか～	高橋宗瑠（大阪女学院教授）	5/15	15
けんぼうカフェ 夫婦別姓を考える	藤井恭子（弁護士）	7/17	8
ピースフェスティバル2021 ていんさぐぬ花 ～沖縄の基地から見えてきたもの～（オンライン）	伊礼ゆうき（元浦添市議） 名古屋Yユース、沖縄Yユース	9/5	44
けんぼうカフェ 国民投票改正案の問題点を知る	藤井恭子（弁護士）	12/18	10
女性が政治に関わる事の大切さ	中川智子（前宝塚市長）	1/15	39

3. 東日本大震災被災者支援

集会名	日程	参加者数（内職員）
HP改訂作業会	7/31, 10/16	5
街頭募金	3/20	6（1）

Ⅲ. 社会的に弱い立場におかれた人への支援事業

1. 知的障がいをもつ女性の社会参加を促進する事業

（1）グループパレット（知的障がいをもつ女性たちのグループ活動）

◇2021 年度登録者数 13 名

集会名	集会日	参加人数
例会	年間 5 回	延べ 51
家族の集い	—	—

2. 視覚障がいをもつ人の社会参加を支援する事業

◇点字子ども図書室

	回数／年	延人数
点字図書製作	47 回	405
点字図書貸し出し	47 回	111
貸出対象人数	貸出タイトル数	貸出冊数
35	74	121

◇視覚障がい者支援

グループ名		回数	延人数
リーディング	エコー	4	11
	ぼれぼれ	2	7
むらさきつゆくさの会		4	受講生 28
			ボランティア 33

3. 高齢者の社会参加を促進する事業

◇配食サービス

回数／年	配食数／年	総数／年	調理働き人／年	運転働き人／年
48	3,034	4,059	465	194

◇主催事業

行事名	集会日	延人数
ちぎり絵講座	10/11、12/15	20
手作りクリスマスカード	11/26	5
講演会「コロナ禍の心のケア」	1/22	12

4. 女性のエンパワメント推進事業

◇プログラム

プログラム名	回数・集会日	人数
くれよん月例会	11	70
インターンシッププログラム	10	49
オンライン講演会「日常の中のミソジニー」	6/26	20
堺東高校へ出前授業「身近にあるかな？ジェンダーバイアス～SDGsの5番めを考えよう」	7/1	40
関西学院大学YWCA主催「学校の制服がジェンダーバイアスに与える影響」	11/14	14
オンライン読書会『女ざらいーニッポンのミソジニー（上野千鶴子著）』	8/21	6
オンライン講演会「包括的性教育」	9/11	27
関西学院大学YWCA主催Orange KG スペシャルイベント 「すべてのジェンダーとセクシュアリティの人に知ってほしい デートDVと避妊」	12/5	15
RUSV チーム プール学院中高YWCA部オンラインワークショップ 「わたしのからだはわたしのものーわたしとあなたの同意のはなし」	2/12	16
シンポジウム「欧州評議会イスタンブール条約に学ぶー被害者支援の新しい在り方」 (いくの学園と共催)	2/19	51
関西学院大学YWCA主催 「関学生と考えるジェンダー・セクシュアリティ～卒業研究シェアの会～」	2/27	19
【トークイベント】私たちの言葉には力があるー“つるむ”ことから始めようー	3/20	39

◇外部集会・研修・会議等

プログラム名	集会日	参加者数（内大阪Y）
ワンワールドフェスティバル for Youth オンラインイベント 教員のネットワークセッション	12/5	24（2）

5. 中国残留邦人等への支援事業

(1) 近畿中国帰国者支援・交流センター（厚生労働省委託事業）

◇クラス状況

*通学学習課程（春・夏期 9月末在籍者）

クラス	在籍者数
入門日本語	1
集中日本語	7
日本語A	7
日本語B	3
日本語C	5
日本語D	5
日本語E	12
日本語F	11
日本語G	7
日本語H	9
上級ビジネス日本語	10
日本語能力試験N3対策	13
日本語能力試験N2対策-A	8
日本語能力試験N2対策-B	6
日本語能力試験N1対策	11
通訳案内士試験対策	14
パソコン基礎	8
合 計	137

*通学学習課程（秋・冬期 3月末在籍者）

クラス	在籍者数
入門日本語	3
集中日本語	6
日本語A	6
日本語B	7
日本語D	9
日本語E	13
日本語F-1	9
日本語F-2	7
日本語G	10
日本語H	10
上級ビジネス日本語	11
日本語能力試験N3対策-A	7
日本語能力試験N3対策-B	7
日本語能力試験N2対策-A	12
日本語能力試験N2対策-B	7
日本語能力試験N1対策	15
観光・医療通訳技術	16
パソコン基礎	6
合 計	161

*遠隔学習課程スクーリング

コース名	延べ出席者数
おしゃべり文法	5
生活場面日本語「学校」	12
生活場面日本語「医療」	8
続・入門日本語語法文型B	12
日本語発音講座	10
「介護職員初任者研修」受講準備	9
読解の基礎	2
漢字学習A	4
漢字学習B	22
消費生活	9
合 計	93

◇その他

*観光・医療通訳技術「特別授業～近年の特に気を付けるべき犯罪について～」 12/5 講師：大阪府警/曾根崎警察署 3名
参加者：15名

*大根/白菜収穫体験 12/18 行き先：伊賀市 参加者：37名

*中国残留邦人に係る近畿ブロック担当者連絡会議 12/22 参加者：44名

*集中日本語クラス就労面接実習 2/28 講師：四天王寺大学 富田美幸助教 参加者：7名

◇会議・研修会

*全体講師会&中間講師会 全4回

*新人講師オリエンテーション 全2回

*オンライン授業研修会 4/3 参加者：8名

*研修会 オンライン授業及び著作権法について 10/2 参加者：6名

*スクーリング講師研修会 11/19 主催：首都圏センター 参加者：清島千春

*ZOOM勉強会 ①11/20 参加者：3名 ②1/16 参加者：11名

*中国残留邦人等への理解を深めるシンポジウム 11/20 主催：尼崎市 協賛：近畿中国帰国者支援・交流センター

参加者：約140名 参加者：山下つねよ 小野美也子 五十嵐裕

＊中国残留邦人等永住帰国者に対する就職援助事業の運営状況に係る会議（オンライン） 11/29 主催：厚生労働省職業安定局

参加者：山下つねよ 坂東暁子

＊介護支援コーディネーター連絡会議（オンライン） 12/21 主催：厚生労働省 参加者：山下つねよ 小野美也子 坂東暁子

＊中国残留邦人に係る近畿ブロック担当者連絡会議 12/22 参加者：44名

◇地域交流活動・行事

内 容	実施回数	延べ参加人数
朗朗クラブ 和・洋裁Ⅰ	23	64
朗朗クラブ 和・洋裁Ⅱ	22	48
朗朗クラブ 日本語	26	265
朗朗クラブ イキイキ体操	22	140
朗朗クラブ 健康体操	22	96
囲碁・将棋・トランプ	0	0
傾聴会話交流	0	0
社交ダンス	0	0
地域交流バス旅行 大根/白菜収穫体験	1	37
合 計	115	613

「囲碁・将棋・トランプ」「傾聴会話交流」「社交ダンス」は新型コロナウイルス感染拡大により実施しなかった。

◇相談事業 相談件数 164件

◇介護支援事業

＊語りかけボランティア登録人数 78名

＊語りかけボランティア活動状況 新型コロナウイルス感染拡大によりボランティアの派遣を実施しなかった。

＊実施地域 新型コロナウイルス感染拡大によりボランティアの派遣を実施しなかった。

＊語りかけボランティア養成研修会 3/19 ファシリテーター：金香百合 体験発表者：下岡純子

（2）大阪市中国残留邦人等に対する地域生活支援事業

◇身近な地域での日本語教育支援事業

＜春・夏学期＞

クラス	受講者数
ゆっくり日本語A（梅田）	9
ゆっくり日本語B（梅田）	11
ゆっくり日本語C（梅田）	13
ゆっくり日本語D（梅田）	19
趣味のパソコン入門（梅田）	4
朗朗自習パソコン（梅田）	4
日本語A（平野）	2
日本語B（平野）	3
東淀川朗朗日本語	13
合 計	78

＊講師数 10名

＊講師会 年4回実施

＜秋・冬学期＞

クラス	受講者数
ゆっくり日本語A（梅田）	9
ゆっくり日本語B（梅田）	11
ゆっくり日本語C（梅田）	13
ゆっくり日本語D（梅田）	19
趣味のパソコン入門（梅田）	6
自習パソコン初級（梅田）	6
日本語A（平野）	12
日本語B（平野）	7
東淀川朗朗日本語	15
合 計	98

（3）門真市中国残留邦人等に対する地域生活支援事業

◇身近な地域での日本語教育支援事業

＜春・夏学期＞

クラス	受講者数
日本語A	4
日本語B	3
日本語C	2
合 計	9

＊講師数 3名

＊講師会 4回実施

＜秋・冬学期＞

クラス	受講者数
日本語A	5
日本語B	3
日本語C	3
合 計	11

◇地域交流事業

＊朗朗クラブ 17回 延べ参加者数：64名

(4) 京都市中国残留邦人等に対する地域生活支援事業

◇身近な地域での日本語教育支援事業

クラス	受講者数
日本語A	4
日本語B	6
合 計	10

＊講師数 2名 ＊講師会 2回

◇地域交流事業等

＊京都朗朗クラブ 2回 延べ参加者：17名

(5) 宇治市中国残留邦人等に対する地域生活支援事業

◇身近な地域での日本語教育支援事業

クラス	受講者数
日本語A	5
日本語B	7
合 計	12

＊非常勤講師数 2名 ＊講師会 2回

◇地域交流事業等

＊京都朗朗クラブ 5回 延べ参加者：42名

＊醍醐朗朗クラブ 6回 延べ参加者：57名

(6) 堺市中国残留邦人等に対する地域生活支援事業（堺健老クラブ）

◇身近な地域での日本語教育支援事業

＜春・夏学期＞

クラス	受講者数
日本語初級1A	13
日本語初級1B	14
日本語初級Ⅱ	6
合 計	33

＊非常勤講師数 3名 ＊講師会 年4回実施

＊合同クラス&交流事業ボランティア参加：新型コロナウイルス感染拡大により実施しなかった。

＜秋・冬学期＞

クラス	受講者数
日本語初級1A	16
日本語初級1B	16
日本語初級Ⅱ	5
合 計	37

◇地域交流事業他

＊校外学習 ＊新型コロナウイルス感染拡大により実施しなかった。

IV. 青少年育成事業

1. 青少年活動

(1) 小中学生のための異文化理解プログラム

◇主催事業

プログラム名	場所	集会日	人数
クリスマス会 歌声届けよう ハッピークリスマス	吹田市自然体験交流センター	12/5	21
わくわく大運動会	同上	3/27	24
夏休みこどもミニスクール	大阪YWCA	7/29	10
冬休みこどもミニスクール	シャロン千里	12/27	15

◇リーダー会・ワーク・リーダートレーニング

事業名	回数／日程	人数（内職員）
ミーティング・ワーク	14	58（15）
リーダートレーニング	5/23、8/21、11/23、2/19、2/20	22（5）

2. 子ども図書室事業

◇プログラム

プログラム名	回数／年	延ボランティア数	延利用者数
ちゅうりつぶくらぶ	7	25	79

◇グループ活動

グループ名	回数／年	延人数
おはなしの部屋	2	17
ワークショップ	—	—
第一の会	—	—
第五の会	—	—

3. 子育て支援事業

◇プログラム

プログラム名	回数／年	延ボランティア数	延参加者数
おやこひろば	20	73	299
おやこひろば託児	1	3	6
ママズカフェ	9	—	111
ママズカフェ座談会	1	—	6

V. ボランティア養成事業

1. 梅田

◇行事

行事名	回数	延人数
きまぐれバザー仕事会&開店	4	18

◇作業会

活動名	回数	延人数
発送	12	58
紫蘇ジュース作り	1	7
パン販売	5	18

◇傾聴ボランティア活動

活動名	回数／年	延人数	
傾聴カフェラベンダーミーティング・勉強会	2	ボランティア	18
訪問傾聴	0	利用者	0
		ボランティア	0

◇グループ活動

グループ名	回数	延人数	グループ名	回数	延人数
みのり会	5	27	スウスの会	7	39
英会話サロン	13	60	いのちを語る会	2	6
聖書を学ぶ会	6	52	絵手紙の会	7	19
手話サークル〈knot〉	16	254	ねこの会	1	6
ソーブカービングの会	3	18			

2. 千里

◇行事

行事名	集会日	延人数
千里ガレッジセール	10/23	30
千里クリスマス会	12/8	29

◇グループ活動

グループ名	回数/年	延人数	グループ名	回数/年	延人数
会館ボランティア	8	35	使用済み切手整理	11	72
聖書を読む会	3	38	アトリエ「創」	18	108
合唱団	20	520	ブリジツ	5	22
ハンドベルクワイア	10	105	文月会	11	88
サロン四季	7	34	生花グループ	35	35

◇趣味のグループ

グループ名	回数/年	延人数
生花を楽しむ会	10	96
水彩画	7	48

◇作業会等

活動名	回数	延人数	活動名	回数	延人数
折姫	11	71	毛糸の帽子を編む会	2	3
青葉の式	1	3	古着・古本市	2	8

3. ボランティアの受入れ

◇ボランティア説明

説明会（延人数）			
回数	ボランティア希望	職員	登録者数
7	8	7	6

VI. 広報

1. 機関紙

(1) 発行の概要

◇回数 6回（5月、8月、9月、11月、12/1月、3/4月、5月）

◇部数 各1,800部 ◇サイズ A4版4ページ

◇配布先 会員・会友、専門学校生、クラス生、講師、賛助会員、賛助会社、各市YWCA、関係団体、講座・集会参加者、大阪市内各女性センター、他

◇広告協力会社 有限会社イースター式典社、株式会社オフィスインテリア、学校法人大阪女学院、株式会社藤木工務店

発行月	特集内容		
	1面	2.3面	4面
5月号	女性の政治参画の重要性―現場の視点から (武井多佳子/愛媛県議会議員)	「核」否定の思想に立つて半世紀/4 市Yの合同ミーティング	第104回定期会員集会報告
7月号	沖縄戦戦没者を二度殺す計画に反対を (島しづ子/うふざと伝道所牧師)	オンライン学習会報告―パレスチナ 人は苦しみ続ける/世界YWCA日集 会	2021年度加盟YWCA中央 委員会報告―全国の仲間 とのつながりを実感
9月号	日常の中のミソジニー (小川たまか/フリーライター)	女性の力を生かせる社会に /日本YWCAの新しいビジョン・ミッ ション・バリュー	留学生の近況報告―進 学説明会
11月号	苦しみの証言からおこされた祈り！ (渡邊さゆり/マイノリティ宣教センター 共同主事)	政治はわたしたちの生活そのもの― 沖縄の日常の中で/ピースフェス ティバル2021―ていんさぐぬ花	コロナ禍でも元気な大 阪YWCA
12/1月号	岸田文雄の新しい資本主義は要らない 浜矩子/同志社大学大学院教授	クリスマスメッセージ/歌声届けよ う―ハッピークリスマス	奨学金に感謝/ウェルカ ムスーパ
3/4月号	女性の政治参画―仲間の存在が欠かせない 中川智子/元宝塚市長	イースターメッセージ/私たちの言 葉には力がある！	Rise Up School Visits 活動報告

会員・会友・賛助員・寄付・募金等

1. 会員・会友

◇2022年3月末会員数 244名

◇2022年3月末会友数 6名

2. 賛助員

◇法人 4社

大阪商工会議所、(株)サンカラーシッピング、積水化学工業(株)、ワツコ(株)

◇個人 101名

有井由紀子、有田悦子、井口和子、池田洋子、石井由佳子、伊藤景子、伊藤美都子、植原昭子、内坂晃、宇都宮ゆかり、越後靖子、大川哲次、大西徳子、大野弘美、大平美保子、大森浩平、岡由紀子、奥野由里子、落合保子、梶原汎子、片山純子、神屋敷絹恵、加輪上敏彦、川上光子、貴志慶子、日下部眞知子、國里順子、栗本丹志貴、黒田朋子、小池りつ子、河野栄子、河野陽子、小島志佐子、後藤ゆかり、木幡敦子、小林千重子、小林直子、西条哲、笹部真樹、佐藤朋子、沢田陽子、ジャクティアニー富士子、少徳充子、関根久子、芹野恵美、高木裕子、高橋浩二、滝根圭子、竹本良子、田中英子、田中佐和子、田中義信、谷川毅、檀上忠子、辻朋宏、寺中裕子、都木直文、徳平真弓、豊島博子、中川佐知子、中山ゆかり、西由香利、西名貞子、野上富美子、端野昌彦、波田則子、花岡千代美、原口早和子、平櫛圭甫、藤井保男、藤田恭子、藤原智子、藤原裕美子、船越あゆみ、古谷桂子、堀西敏子、榊居孝、松江訓子、松下起子、松下宜代、松田慶子、松田真理子、松永茅光、三澤文子、南憲明、宮澤玲子、向井恭子、宗像千代子、望月文子、森垣友二郎、森口清子、八木みゆき、安原みゆき、山崎久美子、山東史子、山本昌子、吉井知加、吉田佳代子、吉田耕平、匿名2名

3. 寄付

◇個人寄付者一覧 (大阪YWCA会員を含む)

秋田美空、朝川晃子、有井由紀子、有山龍作、栗津重光、栗津純子、栗野陽一、飯田雅子、家本陽一、池田洋子、伊藤景子、植木知子、上田賢博、上野康子、内坂建、岡部順子、奥野由里子、小澤裕子、片山隼亮、葛良清子、加藤康子、川崎道子、川崎仁子、北尾敦子、小池りつ子、こどもたちの自由で安全な野外活動のために、小八木晴代、西条哲、阪本和子、笹部真樹、笹部昌子、沢田陽子、鹿野憲一、鹿野幸枝、清水康子、白川啓子、末吉佳世子、鈴木豊子、住田サーラ、関根久子、芹野与幸・恵美、高木裕子、高野芙美子、高橋和子、瀧本政子、田中淳子、田中義信、田中礼子、谷川いづみ、辻加代、辻川さとみ、津戸真弓、鶴崎祥子、都木恵子、徳広彩、所佳子、永井淑子、中津陽子、中山ゆかり、仲山由紀子、中山羊奈、錦織一郎、西名貞子、西本照子、橋本智香子、波田則子、早川菜津美、原紀子、平野千代子、広瀬圭子、ブイ カイン リン、藤井保男、藤岡美智子、古河順子、帆足文子、堀西敏子、本郷千佳子、前川契子、榊居孝、松田慶子、松田昌裕、溝手伸子、溝手真理、宮崎祐、村井毅、村川京子、村松通子、森垣房子、森垣友二郎、森本栄次、八木田いつ子、山川文子、山下つねよ、山地由紀、山東史子、山本淳子、横内いづみ、吉田暁美、吉田信子、李婧、渡邊知子、匿名 9名

◇寄付団体一覧

アトリエ創、生花を楽しむ会、学校法人伊丹教会学園二葉幼稚園、NCC-URM委員会、日本基督教団扇町教会、日本基督教団大阪教会、日本基督教団大阪城北教会、大阪YWCA千里ガレッジセール支援者一同、大阪YWCA千里クリスマスミニセール、大阪YWCA千里合唱団、大阪YWCAクリスマスバザー支援者、日本基督教団北千里教会、日本基督教団希望ヶ丘教会、金蘭千里中学校・高等学校、クリスマス会参加者一同、グループパレット一同、コスモ建物管理株式会社、子ども図書室、財務委員会一同、サロン四季、シックスポイント、シャロン千里、水彩画を楽しむ会、聖書を読む会、千里委員会一同、千里ハンドベルクワイヤ、千里ボランティア委員会、日本基督教団豊中教会、豊中千里ロータリークラブ、一般財団法人中山文甫会館、配食グループ、バッグウッズマウンテンアーズコンサート参加者、ファンドレイジング支援者、文月会、Bridges、マスク製作チーム、日本基督教団南住吉教会、日本基督教団都島教会

4. 募金

◇募金者一覧

秋山佳子、朝岡千晶、荒木慧子、栗津純子、飯田雅子、生花を楽しむ会有志、井上隆晶、植木知子、上野康子、内坂建、梅田会員部委員会有志、遠藤恵美子、大岡眞知子、大杉美耶子、太田三紀子、大原千恵子、小澤裕子、加藤英美、加藤康子、川上悦子、川崎明恵、川崎仁子、北嶋仙子、こども部一同、齋藤知子、坂上信子、坂本富士子、櫻井敏子、

笹部昌子、雀部真理、鹿野幸枝、穴戸百子、清水勇起・記子、奨学金委員会一同、女性エンパワメント推進チーム一同、末吉佳世子、鈴木豊子、千里委員会一同、高田良子、高橋和子、瀧本政子、田口美智、田中直美、谷川いづみ、谷佐代子、辻加代、辻川さとみ、植本紀子、所佳子、中島理依子、中津陽子、西村美恵子、西村由紀子、野上由紀子、俳句講座受講生一同、橋本憲昂、原紀子、東日本大震災被災者支援担当一同、平櫛紀子、平野信江、広瀬圭子、ファンドレイジング支援者、深堀潤子、藤岡美智子、藤田陽子、Bridges 一同、古河順子、平和・環境部委員会有志、帆足文子、保々恭子、堀河昌子、本郷千佳子、本田芳子、宮崎祐、森垣房子、安田乙世、山地和家子、山本安主子、吉田暁美、吉田くすほみ、吉田瀧子、渡邊成子、匿名1名

5. バザー協力企業・団体

(株)インターアークアソシエイツ、永和信用金庫、(株)オフィスインテリア、(株)神川工務店、コスモ建物管理(株)、シェラトン都ホテル大阪、(株)ジュノインターナショナル、大寅蒲鉾(株)、帝国ホテル大阪、日本生命保険相互会社、伯方塩業(株)、ワツコ(株)

6. 補助金・助成金(順不同)

助成団体	金額(円)	受入れ先
社会福祉法人吹田市社会福祉協議会	36,000	点字子ども図書室
独立行政法人日本学生支援機構	100,000	大阪YWCA専門学校 日本語学科
公益財団法人日本YWCA	514,000	女性エンパワメント推進チーム
公益財団法人日本YWCA	85,000	こども部
公益財団法人日本YWCA	1,546,000	総務
社会福祉法人大阪市社会福祉協議会	300,000	講座部
独立行政法人国立青少年教育振興機構	358,602	講座部

会議等

1. 評議員会

◇評議員 任期2019年6月22日～2023年6月21日

朝川晃子、井口智子、太田麗子(～2021.12.31)、片山淳子、川崎知子、辻川さとみ(～2021.6.12)、西村由紀子、平井佐津紀、広瀬圭子、深堀潤子、堀河昌子、松岡美智代、村松通子、横内いづみ、渡邊成子

◇評議員会の開催

回	開催日	議 案
1	2021年6月12日	第1号議案 2020年度事業報告 第2号議案 2020年度決算報告及び監査報告 第3号議案 理事・監事の選定について 第4号議案 評議員の退任について 第5号議案 2021年度4～5月事業報告
2	2022年3月19日	第1号議案 2022年度事業計画 第2号議案 2022年度予算、2022年度資金計画及び設備投資の見込みについて 第3号議案 諸報告

2. 理事会

◇理事・監事 任期2019年6月22日～2021年6月21日

代表理事：鹿野幸枝 理事：小澤裕子、雀部真理、谷川いづみ、辻加代、津戸眞弓
常務理事：中山羊奈 業務執行理事：中村友美、山下つねよ
監事：坂上信子、三木秀夫

任期2021年6月12日～2023年6月13日

代表理事：谷川いづみ 理事：小澤裕子、雀部真理、鹿野幸枝、辻川さとみ、津戸眞弓
常務理事：中山羊奈 業務執行理事：中村友美、山下つねよ
監事：坂上信子、三木秀夫

◇理事会の開催

回	開催日	議 案
1	2021 年 5 月 28 日	第 1 号議案 2020 年度事業報告 第 2 号議案 2020 年度決算報告及び監査報告 第 3 号議案 2021 年度財政に関して ① I T 等設備整備に関して ② 山西福祉記念会館との交渉について 第 4 号議案 2021 年度第 1 回評議員会の開催について 第 5 号議案 理事・監事の改選について 第 6 号議案 2021 年度 4～5 月事業報告
2	2021 年 6 月 12 日	第 1 号議案 第 6 期代表理事、常務理事及び業務執行理事の選任 第 2 号議案 第 6 期の運営体制について
3	2021 年 8 月 7 日	第 1 号議案 2021 年度 6～7 月事業報告 第 2 号議案 2021 年度 4～6 月収支明細報告 第 3 号議案 報告を受けて、今後の事業展開について 第 4 号議案 北千里複合施設の管理運営公募について
4	2021 年 11 月 4 日	第 1 号議案 下期見通しによる決算見通しについて 第 2 号議案 2021 年度 8 月～10 月事業報告 その他 *北千里小学校跡地指定管理申請について（報告）
5	2022 年 1 月 20 日	第 1 号議案 2021 年度 11 月～1 月事業報告 第 2 号議案 2022 年度の事業について 第 3 号議案 人事について 第 4 号議案 「電子帳簿保存法規程」について 第 5 号議案 評議員会の日程について
6	2022 年 2 月 3 日	第 1 号議案 2022 年度事業計画(案)について 第 2 号議案 2022 年度予算（案）、資金計画及び設備投資の見込みについて 第 3 号議案 将来計画策定について
7	2022 年 3 月 30 日	第 1 号議案 就業規則の改訂について

3. 設置委員会等

委員会名	回数	延出席数	委員会名	回数	延出席数
評議員会	2	30	大阪版編集委員会	5	23
理事会	6	57	梅田会員部委員会	7	50
財務委員会	4	50	千里委員会	10	164
人事委員会	5	42	会員委員会	4	33
運営委員会	11	105	千里子育て支援委員会	4	32
運営委員会役員会	10	66	千里ボランティア委員会	6	52
平和・環境部委員会	10	85	奨学金委員会	3	19
女性エンパワメント推進チーム	10	65	東日本大震災被災支援担当	4	25
こども部委員会	6	24	指名委員会	3	18
グループパレット委員会	4	32			

4. 職員・専任講師

◇職員

総幹事 中山羊奈
 幹 事 川崎（三國谷）仁子、中村友美、坂東暁子、山下つねよ、藤田実余子、吉本沙矢香（2 月～）
 幹事補 牛江真由子、奥美和子、桑原静枝、李婧
 非常勤 五十嵐裕、岩井一枝、小野美也子、加藤真弓、金子蘭、岸田尚美、黒須史江、小村龍男、田中直美
 坂東摩波、藤原裕美子、堀奈央美、松下宜代、山本いち子

◇職員会 20 回

◇専任講師 井関幸、氏原庸子、清島千春、佐伯玲子

◇専任講師会 5回

施設維持・不動産管理

◇会館整備

2 階帰国者専任講師室冷温水管漏水修理

世界YWCA、日本YWCA、他市YWCA関係

内 容	日程	参加者数	内、大阪YWCA
YM/YW合同祈祷週集会	11/9	26	5
加盟YWCA会長会	4/24	46	1
加盟YWCA中央委員会	5/22	86	6
加盟YWCA中央委員会議案説明会	5/16、17	83	4
日本YWCA 若い女性のエンパワメント事業を推進するファシリテーター養成講座	10/9、11/13、12/11、1/8、2/12	173	12
日本YWCA 運営委員研修	1/10、3/21	99	10
日本YWCA ユースファン্ড説明会	9/8	8	1
4市Y合同世界YWCA日集会	4/17	36	6
京都YWCA 2.11集会 沖縄×2.11	2/20	約30	1
Rise Up! 全国交流会	5/29、1/30	32	3
日本YWCA職員研修会 (1～3年目)	5/1、6/5、7/3、7/31、8/28	98	15
日本YWCA幹事研修会 (4年目以降)	9/2、9/16、10/7、11/4、11/25	55	5
日本YWCA職員研修打合せ	4/15、7/7、8/11	15	3
全国幹事会オンライン分科会	11/9	38	7
代表幹事会	4/15、5/20、7/8、9/16、30、10/15、11/25、1/20	48	7
総幹事会	5/17、8/30、2/9、3/30	39	4

* 日本YWCA理事、財政・会館事業部会、建物管理部会：鹿野幸枝

* 日本YWCA理事、財政・会館事業部会、建物管理部会、人事部会、候補者選考委員会：谷川いづみ

* 日本YWCA運営委員、人権・ジェンダー委員会：雀部真理

* 日本YWCAネットワーク強化委員会、人材養成部会：栗田明日香

* 日本YWCA人材養成部会：辻川さとみ

* 代表幹事：中村友美

外部関係団体

一般財団法人大阪市青少年活動協会、一般財団法人大阪府青少年活動財団、青少年育成大阪府民会議、大阪府キャンプ協会、公益財団法人大阪ユースホステル協会、公益財団法人大阪ボーイスカウト振興協会、社会を明るくする運動実行委員会、特定非営利活動法人関西国際交流団体協議会、公益財団法人大阪府国際交流財団、大阪地域留学生等交流推進協議会、大阪府男女共同参画推進連絡会議、大阪市企業人権推進協議会、社会福祉法人関西いのちの電話、大阪商工会議所、特定非営利活動法人いくの学園、大阪市DV施策ネットワーク会議、大阪府DV施策ネットワーク会議、NPO法人全国女性シェルターネット、国際女性年大阪連絡会、特定非営利活動法人関西NGO協議会、日本基督教団大阪教区核問題特別委員会、大阪キリスト教連合会、大阪キリスト教婦人連合会、NCC都市農村宣教委員会、全国専門学校各種学校日語教育協会、全国専門学校各種学校連合会、大阪府専修学校各種学校連合会、一般財団法人中山文甫会館、国連ウィメン日本協会大阪、憲法9条の会・関西、九条の会・おおさか、ヒバクシャ国際署名推進・大阪連絡会、学校法人大阪女学院、認定NPO法人大阪被害者支援アドボカシーセンター、社会福祉法人大阪キリスト教女子青年福祉会